

令和8年度 配付花苗（秋苗）の概要

◇配布する花苗の種類

＊パンジー

【花 色】 黄、淡青、赤

【草 丈】 20～30cm

【定植場所】 日当と水はけの良い場所

【特 性】 花径約7cmの中輪。丈夫で育てやすい花ですが、植え付け時のヨトウムシやネキリムシ、春先のアブラムシやアオムシに注意。終わった花をこまめに取り除くのも大切です。



＊ビオラ

【花 色】 桃、白、黄+紫

【草 丈】 15～30cm

【定植場所】 日当と水はけの良い場所

【特 性】 花径約3cmの小輪で、株がコンパクトにまとまり、かつ生育力のある品種。植え付け時のヨトウムシやネキリムシ、春先のアブラムシやアオムシに注意。終わった花をこまめに取り除くのも大切です。



＊シロタエギク

【花 色】 ※銀色の葉を楽しむ品種です

【草 丈】 20～40cm

（草丈が高くなり草勢が乱れたら、切り戻しましょう）

【定植場所】 日当たりと水はけが良く、乾燥気味の環境を好みます。

【特 性】 初夏に黄色の花を咲かせますが、花が咲くと栄養素を取られ、株が弱まります。夏の時期につぼみを切り戻すことで、冬まで銀色の葉を楽しめます。



◇配布する花苗のサイズ

お渡しする秋苗は72穴トレーで育てた苗です。

※寒さ対策のため、夏苗(128穴トレー)よりも一株あたりのサイズは大きめです。

《裏面に育て方のコツがございます》

【花壇の方向け】

▶連作障害を意識して花のレイアウトを決めましょう

同じ科の花を同じ場所に繰り返し植えると、必ずではありませんが生育不良がおこる場合があります。土を深さ20～30cmくらいまでよく耕して空気にさらすと、連作障害がおこる可能性を下げることが出来ます。また、昨年とは別の科の花を植えることで、確実に連作障害を回避することができます。配布している花の休作期間の目安は次のとおりです。

<夏 苗>

ベゴニア (シュウカイドウ科)	2年
サルビア (シソ科)	3年
マリーゴールド (キク科)	連作OK
ジニア (キク科)	1年
インパチェンス (ツリフネソウ科)	1年
アゲラタム (キク科)	1年
ケイトウ (ヒユ科)	2年

<秋 苗>

パンジー (スミレ科)	連作OK
ビオラ (スミレ科)	連作OK
シロタエギク (キク科)	1年

▶土壌改良もおすすめです

連作障害対策に加えて土壌改良も行くと、生育不良がおこる可能性をさらに減らすことが出来ます。

①植え付け2週間前に石灰を散布して酸度を調整する。

(撒きすぎに注意、緩効性の苦土石灰または有機石灰がおすすめです)

②植え付け1週間前に土壌改良材と肥料を混ぜてよく耕す。

<土壌改良剤の種類>

●植物性堆肥 (肥料成分は少ないが、高い土壌改良効果)

- ・腐葉土...土を柔らかくする
- ・もみ殻堆肥...水はけをよくし、粘土質の土壌に効果
- ・バーク堆肥...保水性を高める

●動物性堆肥 (土壌改良+肥料として効果を発揮)

- ・牛糞堆肥...土を柔らかくし、肥料分のバランスも良い
- ・鶏糞堆肥...肥料分が多く、入れすぎに注意
- ・豚糞堆肥...肥料を与えつつ、土壌改良したい場合に

ぜんぶできなくても大丈夫！
できる範囲で楽しみながら、
花いっぱいの花巻を目指し
ましょう！



※害虫に苗を食べられる場合は、専用の殺虫剤を肥料と同時に混ぜ込むか、植え付け後に苗周辺に散布。

【プランターの方向け】

▶プランターの場合は新しい培養土に入れ替えるか、土の再生を行いましょう

古い土を捨てる場所に困る方は、土の再生がおすすめです。

①プランターから土を取り出してほぐし、残った根などを取り除く。

②土を厚手の黒いビニール袋で密封して、日のあたる面を変えながら3～7日ほど日光に当てる。

(熱で虫や菌を消毒をする効果があります。ただし、完全に消毒するわけではないので、消毒後は長く保管せず早めに使用しましょう。)

③消毒した土と有機石灰、有機肥料を混ぜて、花を植え付ける。

【花壇・プランター共通】

▶植え付けと最初の水やりが大切です (秋苗版)

①苗を取り出す際は水で湿らせ、箸やフォークなどで下からすくうようにしましょう。

(苗をつかんでひっぱりだすのはNG!)

②植え付け直後は根が張っておらず苗が乾燥に弱いので、秋苗の場合1か月程度は、水がきれていないかこまめに観察しましょう。

③一方で、土が常に湿った状態だと根腐れを起こすので、頻繁過ぎる水やりは植物にダメージとなります。秋は苗の成長がゆっくりなので水やりの頻度も基本的には少なくすみますが、残暑や育てる場所の違い(屋内/屋外)によって土が乾くスピードに変化が生じやすいので、注意が必要です。苗に張りが無くなり、くたっとしたら水やりが必要です。

④屋外の花壇やプランターで育てる場合、霜が降りる前までは、苗がくたっとしたタイミングで、暖かい日の午前中を選び水やりをしましょう。霜が降りた以降春までは、基本的に水やりは不要です。